

加藤会計通信

あけましておめでとうございます。皆さまの健やかな一年間を願っております。

2020年について

今年はどのような年になるのでしょうか。未来のことは誰にもわかりませんが、今現在、決まっていることを列挙してみました。グラフは、過去五年間の景気動向です（日本経済新聞経済指標ダッシュボードより）。皆様の今年一年間の計画に、ご参考頂ければと思います。

1月11日	台湾総統選挙
3月	KDDI とソフトバンクが 5G を導入へ
4月1日	働き方改革関連法施行
4月15日	韓国総選挙
6月30日	キャッシュレス決済によるポイント還元終了
7月24日	東京オリンピック開幕（8月9日まで）
8月25日	東京パラリンピック開幕（9月6日まで）
11月3日	アメリカ大統領選挙

日経平均株価

2万3660円
2019年12月

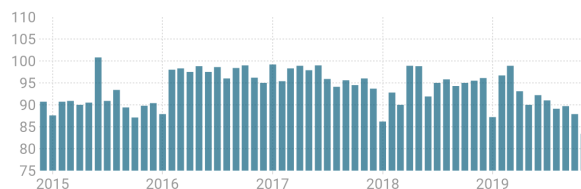


出所：| 2019年12月30日 更新

NIKKEI

新設住宅着工戸数

83.4万戸
2019年11月



出所：| 2019年12月26日 更新

NIKKEI

稼働率指数・製造工業
(2015=100)

95.8
2019年10月



出所：| 2019年12月13日 更新

NIKKEI

小売業販売額

前年比 -2.1%
2019年11月



出所：| 2019年12月27日 更新

NIKKEI

令和2年1月6日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

今年も確定申告の時期がやってまいりました。申告期限は3月16日(月)です。お早めの資料のご準備をどうかよろしくお願い致します。ご不明な点がありましたら、いつでもご連絡くださいませ。

固定観念について

突然ですが、以下の文章の意味が理解できるでしょうか。

「父親と息子が交通事故にあい、息子は一命をとりとめ病院に運ばれた。外科医が来ていった。『この患者は手術できない。自分の息子だから』」

「あれ？父親は交通事故で亡くなったはずなのに、なんでまた登場してくるのかな？」と思った方は、固定観念に頭を支配されています。

外科医は、一命をとりとめた息子の母親です。

「外科医＝男性」という無意識の固定観念が、文章の意味を理解できなくさせているのです。恥ずかしながら私自身、最初読んだときに、この文章の意味がわかりませんでした。

2003年、内閣府男女共同参画推進本部は、2020年までに指導的地位に占める女性の割合を少なくとも30%程度にする、という目標を設定しましたが、全く達成できておりません。固定観念（男性だけでなく、女性にもある）が、女性の活躍を妨げているように思えます。

学生時代は成績に男女の差はないのに、なぜか就職すると昇進するのは男ばかり。これは、明らかに世の中の仕組みが間違っているのだと思います。

人手不足と言われますが、まだまだ眠っている人材はいるように思えます。かかあ天下の群馬県は、ポテンシャルが高いはずです。

令和2年2月3日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

新型コロナウイルスの感染予防対策として、申告所得税、贈与税、個人事業者の消費税の申告・納付期限が一ヶ月（4月16日まで）延長されました。東日本大震災のとき被災した方を対象に延長したことがありましたが、全国一斉の延長は、初めてのことでないかと思えます。

新型コロナウイルスについて

新型コロナウイルスの影響で、3月に予定していたほとんどの会議・会合がキャンセルになりました。

妻の話では、スーパーでは、マスク、消毒液はもちろんのこと、なぜかトイレットペーパーまで不足しているとのこと。飲食、宿泊、旅行関係の会社では、キャンセルが相次いでおり、業績への影響が心配です。

経済産業省は、新型コロナウイルスの企業への影響を緩和し、支援するための施策を公表しております。パンフレットを同封しましたので、ご参考ください。

新型コロナウイルスがどのくらい危険なのか、よく分かっていないことから、不安だけが先行しているように思います。SNSやテレビの無責任な報道に惑わされず、過大評価も過小評価もせず、私達のできることを粛々とする以外に方法はないと思います。

自分でできることは、これくらいでしょうか。

- ・こまめな手洗い
- ・人が集まる場所へ、できるだけ行かない
- ・しっかりと睡眠をとり、体調を整える

（厚生労働省のホームページを参考にしています。新型コロナウイルス感染症についての分かりやすい説明が公表されていますので、おすすめです。）

令和2年3月3日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

世の中はコロナウィルスで大騒ぎですが、桜は今年も咲きはじめました。

今できること

新型コロナウイルスの感染が世界中に広がり、感染者の増加を防ぐために、様々な経済活動が制限されています。

経済的な影響は、まず株価の下落で始まりましたが、ヒト・モノの流れが制限されていることから、実体経済への影響がこれから明らかになっていくものと思われます。これからは、収入の減少に伴う資金繰りの問題（これに伴う連鎖倒産）が大きナリスクとなります。

新型コロナウイルスの終息がいつになるのか予測できないため、これから会社にどのような影響が起こるのか、想定することがとても難しい状況にあります。特に、東京オリンピックを予定通り開催できるかどうかは大きな問題です。

このような先の読めない状況でできることは、ありきたりですが、手元資金を増やしておくことだと思います。

融資枠が残っていれば、使っておくべきだと思います。政府の資金繰り支援を利用する方法もあります（<https://www.meti.go.jp/covid-19/pdf/pamphlet.pdf>）。

借りたお金を使わないで済めば、後で返済すればよいのです。自己資本比率が下がり、利息を払う必要がありますが、今の状況ではやむを得ないのではないのでしょうか。

先の読めない今の状況では、最悪を想定しておくことが必要だと思います。

令和2年3月22日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

今できること

コロナウィルス対策の出口戦略が見えないなか、経済活動の制限は長期に渡る可能性が高いと考えるべきです。

これからは、収入の減少に伴う資金繰り対策が大きな課題となります。

①まず、手元資金を厚くしておくこと。②そして、できる限り出血を最小限度に留めておくことが重要です。

今できることを、ひとつひとつ、やって行きましょう。

政府は矢継ぎ早に緊急対策を発表しております。情報を適時に入手できるようにチェックしておきましょう（経済産業省の支援策パンフレット 4/2 更新版を同封しました）

- 制度融資を利用する
 - ▶ 日本政策金融公庫、商工中金等の新型コロナ感染症特別貸付
 - ▶ 前橋市では、経営安定資金の利用緩和支援を実施
 - ▶ 民間金融機関を通じ、中小企業や個人事業主が実質的に無利子で借り入れできるようにする方針（日本経済新聞 3/28）

- 生命保険の契約者貸付
 - ▶ 生命保険の解約返戻金の範囲内で融資を受けることができる
 - ▶ 多くの保険会社で、コロナウィルス支援として、金利 0%で融資を受けることができる

- 雇用調整助成金
 - ▶ 雇用調整助成金の助成率を中小企業は最大 9 割に引き上げ（4/1 より）

- 納税猶予
 - ▶ 新規に特例法をつくり、2 月以降に収入が大幅に減少した場合は、法人税、消費税等の支払いを、延滞税を免除して 1 年間猶予する方針（日本経済新聞 3/28）

令和 2 年 4 月 1 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

毎日、ニュースで今日の感染者数を確認して、これからどうなるのか、落ち着かない日々を過ごされていると思います。

私も、宴会、会合、会議のほぼ全てがなくなり、自宅でぼんやりする時間が多くなりました。SNS やニュースサイトで次々と流れてくる、本当なのかどうかよくわからない情報に一喜一憂しながら、これからどうなるのか、どんな手を打つべきなのか、とりとめもなく考えております。

新型コロナウイルスの憎らしいところは、人と人がフェイス・トゥ・フェイスで会うことを妨げるところだと思っています。

嫌なことや嬉しいことがあったとき、誰かと集まって語り合い、共感することが私たちの喜びの一つであるはずなのに、それができないことに大きなストレスを感じております。流行りの ZOOM (WEB 会議システム) を使って友人と飲み会をやってみましたが、やっぱり、もの足りなさが残ってしまいます。

経済は、綱目のように全てが複雑につながっています。昔、「アメリカがくしゃみをすると日本が風邪をひく」という言葉がありましたが、今回は、まさに世界中が風邪をひいて、世界中でくしゃみをしている状態にあります。当初は旅行・飲食や、中国のサプライチェーンの寸断という影響がありましたが、これからは、需要の消失や金融システムへの影響を通じて、景気の大きな後退がありそうです。

暗い話になってしまいました。でも、半年後なのか一年後なのかわかりませんが、新型コロナウイルスを克服する日が必ずやってきます。私は、その日に向けて、今できることを地道に積み上げて行く他ないと思っています。小さなことでも、あきらめずに積み上げていけば、振り返ったとき、大きな成果になっているはずです。清潔で安全なお店や職場づくり、助成金の申請、WEB の活用など、今できることは試してみるべきだと思っています。

あせらず、くさらず、あきらめず。

令和 2 年 5 月 1 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

気持ちの良い新緑の季節が来たなと思ったら、あっという間に暑くなりました。マスクが息苦しいです。

明るい話題

コロナ騒ぎが始まってから、4ヶ月余りが経過しました。テレビを付ければ、コロナ。ラジオを聞けば、コロナ。ネットに繋がれば、コロナ。どこもかしこもコロナだらけの世の中にだんだん疲れてきました。

暖かくなってきたので、夜は街へくり出して、仲間と居酒屋でワイワイガヤガヤ、口角泡を飛ばして語り明かす。二次会はスナックでカラオケ。夏は野球。東京ドームの外野席で生ビールを飲みながら、大声でご最良のチームを応援する。人生の楽しいことは、いわゆる三密状態で成立することが多いような気がします。コロナウィルスは、健康・経済面だけでなく、精神面でも、やっかいな敵です。

世の中に、明るい話題がほとんどないので、できるだけ明るいことを考えるようにしています。

例えば、今回のコロナ騒ぎで気づいたのは、地方で働くことの大きなメリットです。コロナのリスクを考えたとき、都心のオフィスに何億円も家賃を払うより、地方に拠点を置いた方が良いのでは、と考える経営者が増えるのではないのでしょうか。特に、都心から比較的近くて生活環境の良い群馬県は、最高の場所なのかもしれないと、妄想しております。

楽しいことが、少しずつ始まってきました。群馬県は、県民が県内の宿泊施設を利用した場合、最大 5,000 円を補助する制度を始めたそうです。まずは、近場の旅行から、始めてみようかと思っています。

プロ野球開幕	6月19日(金)
Jリーグ開幕	6月27日(土)
東京オリンピック開幕	2021年7月23日(金)

令和2年6月5日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

人と人

先日、朝早く起き、暑いので窓を開けると、近所のアパートから夫婦喧嘩の声が聞こえてきました。早朝の澄んだ空気に、罵声が遠くまで響き渡り、近所の方々も玄関から出てきて心配している様子でした。早く収まらないかな、と新聞を読んでおりましたが、どんどんエスカレートしてきて、尋常ではない雰囲気になってきました。大丈夫かな、と心配していると、誰が呼んだのか、パトカーがやってきて、警察の方に絞られたのか、やっと喧嘩が収まりました。

人と人が集まると、必ず揉め事が起こるように思います。夫婦のように、二人だけしかいないのに喧嘩が起こるのだから、人が多く集まる会社などは、揉め事の宝庫のような場所です。仕事柄、色々な会社や団体に行き、内情を知る機会がありますが、「揉め事のない会社はない」と断言できていると思っています。揉め事の内容は、内部の当事者にとってはとても深刻なのですが、外部の人間である私が聞くと、とても些細な事に聞こえます。大抵は、お互いが素直に話し合えば済むことのように思えます。

「江戸城をつくったのは誰でしょう？」という、なぞなぞがあります。「徳川家康」と答えると、誤り。さらに、歴史の知識のある人は「太田道灌」と答えますが、それでも誤り。正解は、「大工さん」です。くだらない子供のなぞなぞですが、ある意味、真理を捉えているような気がしております。

毎日を忙しく過ごしていると、数字で現れる結果や、メディアで流れるニュースにばかり気を取られて、日々、目立たず、地道に汗を流している功労者のことを忘れてしまいがちです。

世の中の変化に翻弄されて、日々忙しく過ごされていると思います。でも、少し立ち止まって、近くの「大工さん」のことを慮ることができれば、少しは世の中の揉め事が減るのかな、と思っています。

令和2年7月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

長い梅雨が明けて、蒸し暑い夏がやってきました。マスクで顔が蒸れるからなのか、日頃の不摂生からなのか、吹き出物ができるようになりました。

リスク

やっと収まってきたと思っていたコロナウィルスが、また広がってきている様子です。注射のように一度の痛みで終わりならば、なんとか我慢できますが、一波、二波と終わりの見えないコロナ禍は、経済的にも、精神的にも、キツイなあと思っております。

コロナ関連だけではなく、ニュースを見ていて思うのですが、世の中は、いつでも東京中心でものを考えているような気がしております。

政治・文化の中心ですからやむを得ないのかもしれませんが、コロナに関しては、東京と群馬では、置かれた状況が全く違うのではないのでしょうか。幸か不幸か、満員電車も、満員のライブハウスも、繁盛しているホストクラブもほとんどない群馬と東京では、感染するリスクも、それに対応する方法も違ってくるのではないかと思います。

監査の世界では、リスク・アプローチという考え方があります。これは、不正や誤りが起きそうな部分を事前に評価して、そのリスクの高い部分に対して重点的に監査を実施する。逆に、リスクの低い部分については、時間をかけないという考え方です（ご存知のように、リスクの評価に失敗して粉飾決算を見逃した事例はたくさんありますが・・・）。

感染リスクをゼロにするには、大きな犠牲を伴います。それよりも、「リスクを管理する」、という考え方が良いのではないのでしょうか。場所、年齢、健康状態など、置かれた状況（リスク）はそれぞれ違うのだから、それぞれの状況（リスク）に応じた対応を、皆で知恵を絞って考えていった方が、かえって良い結果になるのではないかな、と考えております。

令和2年8月4日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

安倍総理が辞任されるとのニュースがありました。時代の変わり目なのでしょうか。

壁

高校時代、ちょっとしたことでケンカをして、それ以来、ひとことも口を聞いていない友人がおります。卒業して別々の道に進み、会う機会がほとんどなく、同窓会で見かけても、なんとなく話しかけづらく、今に至るまでなにも話せずにおります。今、思い返してみれば、ケンカのきっかけは些細なこと（なぜかよく覚えています）なので、普通に話しかければよいのですが、それができずにいます。

先日、テレビで「男はつらいよ」をみていたところ（毎週土曜日にBSテレ東でやってます）、妻がプリプリして、「なにが面白いのか、さっぱり分からない。好きなときに帰ってきて、家族に迷惑をかけて、またフラリと旅に出ていく。こんなワガママな人間の話の何が面白いの？」とっておりました。私は少しムツとして、「寅さんの良さがわからない人間にいくら説明しても無駄だから、説明しない！」と言い放ち、黙ってテレビを見続けました。

人と人との間には、些細なことで小さな壁ができて、いつの間にか壁が高く、厚くなってしまうことが多くあるように思います。

人と人との力を組み合わせて、さらに大きな力を生み出すためには、人と人との間にある壁は、無駄でしかありません。会社、学校、官公庁等いろいろな組織で壁を崩す努力をしておりますが、上手くいっていないように感じます。

バカの壁という本がありましたが、人間にはどうしても理解しあえない部分があるのかもしれませんが、でも、理解し合えない部分があることを知ったうえで、その理解し合えない部分を「棚上げ」して、そのほか全部を認めることはできるはずです。そして、それができる人間を、大人というのだと思っています。

令和2年9月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

市町村より「固定資産税等の軽減申告の手引」が送付されたかと思います。コロナウィルスの影響で収入が一定割合減少している中小企業が申請できます。弊社は「認定経営革新等支援機関」となっておりますので、確認手続きに対応できます。いつでもお問い合わせ下さいませ。

競争

先日、母が興奮して、「たいへんよ、あんた知ってる？事務所の裏に新しい会計事務所ができてるよ！」と電話してきました。

全く知らなかったなので、歩いて行ってみると、確かに、とても立派な会計事務所が新築されていました。

仕事の内容から考えると、小売業等と違って、近所に同業者ができて悪いことはないように思います。でも正直に白状すると、あまり気持ちの良いものではありません。社員たちも、なんとなくザワザワしている様子です。

自由競争を良しとする世の中に生きて以上、他社より良い商品、良いサービスを生み出すことが求められ、他社の動向を意識しないわけには行きません。さらに、競争相手は同業者だけではなく、海外や、思いがけない分野からもやって来ます（会計事務所の場合は、ソフトウェア業界が強力な競争相手になるような気がしております）。

ポーッと生きてると、すぐに置いて行かれる世の中なのでしょう。とはいえ、他人を意識してばかりで良い仕事ができるとも思えません。お金が会社の目的ではないように、他人を出し抜くことが会社の目的ではないはずです。

世の中の情報は溢れ、日々移り変わっております。本当にやるべきことはなんなのか。他人ではなく、自分の心の中を静かに見つめることも必要だと思います。そういう意味では、コロナは良い機会なのかもしれません。

令和2年10月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

アメリカ大統領選挙の開票が始まりました。泥仕合の様相を呈してきましたが、どちらが当選しても、世界に大きな影響がありそうです。

メッセージ

学生のころ、全校生徒が校庭に集まって整列して、校長先生のお話を聞く時間があったように思います。入学式や卒業式のときにも、校長先生のお話を聞いたような気がします。でも、今になってみると、校長先生が何を喋っていたのか、全く思い出すことができません。

社会人になり、監査法人に入ってからでも理事長のお話を聞く機会があったと思いますが、お話の内容をほとんど思い出すことができません。

私も、小さいながらも会社の社長ですので、皆の前で、会社の方針について話すことがあります。正直に白状すると、一人ひとりが話を聞いているのか、よくわかりません。自分の過去を振り返ると、聞いていなくても甘んじて受け入れる他ないのかな、と思ったりしております。

仕事柄、取締役会や経営会議に出席する機会がありますが、そこで共通することは、社長は、何度も何度も、繰り返し同じことを話すということです。最初は、前に話したことを忘れていたのかなと思いましたが、そうではありません。簡単には聞いてもらえないことを知っているからこそ、何度も何度も同じことを言うのです。

基本的に従業員は、社長の話を聞かないし、聞いたとしても、すぐに忘れてしまうのではないかなと思います。

社長の仕事は、会社の方向性を指し示し、皆の力をその方向に結集させることだと思います。そうであるならば、社長のメッセージは、どちらかが諦めるまで永遠に続く、従業員との真剣勝負なのです。

令和2年11月4日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

もう12月になってしまいました。

人との距離をとることが求められるなかで、人と人が集まって、直接会って話すことの大切さに気が付きました。こんな世の中だからこそ、人の暖かさが伝わる事務所でありたいと思っております。

皆様が、穏やかに新年を迎えることを願っております。

年末年始

年末年始は、家にこもって過ごすことになりそうです。

私はこれといった趣味を持たない、つまらない人間なのですが、唯一趣味と言えそうなものが、読書です。自分の狭い世界を開いてくれるものとして「人、本、旅」が大切だと、出口治明氏が言うておりましたが、今年は人と旅が制限されているので、本で年末年始を過ごそうかなと思っております。

そこで、少しはずかしいのですが、私が今年読んで面白かった本をご紹介します。

「13歳からのアート思考（末永幸歩 ダイアモンド社）」
全く意味のわからない現代アートの見方をわかりやすく教えてくれます。

「現代経済学の直観的方法（長沼伸一郎 講談社）」
難しい経済学を従来のテキストとは全く違う視点から説明してくれます。

「かくかくしかじか（東村アキコ 集英社）」
まんがです。一見軽薄に見える漫画家の、大切にしている心の原点を描きます。

「BLUE GIANT（石塚真一 小学館）」
これもまんがです。仙台生まれのサクソ奏者の青春ストーリーです。

「米国会社四季報（東洋経済新報社）」
ペラペラめくるだけです。世の中にはこんな会社があるのか、と驚きます。

令和2年12月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員